

各 位

上場会社名	株式会社 精工技研
代表者	代表取締役社長 上野 昌利
(コード番号)	6834)
問合せ先責任者	取締役管理本部長 柳瀬 晴夫
(TEL)	047-388-6401)

平成23年3月期 第2四半期累計期間業績予想値と実績値との差異 および業績予想の修正に関するお知らせ

平成22年5月14日に公表しました平成23年3月期 第2四半期累計期間(平成22年4月1日～平成22年9月30日)の連結業績予想値ならびに個別業績予想値とそれぞれの実績値に差異が生じたので、下記の通りお知らせします。

また、最近の業績動向を踏まえ、同じく平成22年5月14日に公表しました通期連結業績予想ならびに通期個別業績予想についても修正しましたので、併せてお知らせします。

記

● 業績予想の修正について

平成23年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,400	△350	△340	△630	△68.93
今回発表予想(B)	2,467	△113	△122	△568	△62.19
増減額(B-A)	67	236	217	61	
増減率(%)	2.8	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	2,310	△507	△407	△338	△36.98

平成23年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,000	△400	△340	△750	△82.06
今回発表予想(B)	4,830	△195	△135	△745	△81.51
増減額(B-A)	△170	205	205	5	
増減率(%)	△3.4	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	4,683	△925	△716	△1,342	△146.91

平成23年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,900	△350	△330	△610	△66.74
今回発表予想(B)	1,984	△266	△205	△612	△67.04
増減額(B-A)	84	83	124	△2	
増減率(%)	4.5	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	1,487	△565	△447	△381	△41.68

平成23年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,800	△460	△400	△700	△76.59
今回発表予想(B)	3,720	△475	△335	△885	△96.83
増減額(B-A)	△80	△15	65	△185	
増減率(%)	△2.1	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	3,069	△1,042	△815	△1,508	△165.06

修正の理由

1. 第2四半期累計期間業績予想値と実績値との差異が生じた理由について

【連結】

当第2四半期連結累計期間における世界経済は米国や欧州各国の景気減速感が強まる中、中国をはじめとする新興国においては底堅い成長が続きました。

円高が進行し、連結売上高にマイナス圧力がかかる中、売上高は概ね期初の予想通りに推移しました。損益面においては、当期より取り組みを開始した長期経営計画「マスタープラン2010」に基づく経費削減施策により、営業損益及び経常損益が期初の予想数値から改善いたしました。当期純損益は、減損損失等の特別損失を計画外で計上しましたが、損失額は期初予想よりも減額することができました。

【個別】

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、全般的に緩やかな回復傾向が続いているものの、長期化する円高を背景に企業の業績下振れ懸念が払拭できず、雇用・所得環境も低迷が続く等、先行きの不透明な状況が続いています。

こうした中、売上高は概ね期初の予想通りに推移いたしました。損益面では経費の削減が進み、営業損益と経常損益が期初予想から改善しました。減損損失等、計画外の特別損失を計上した結果、当期純損益は概ね期初の予想通りとなりました。

2. 通期業績予想修正の理由について

【連結】

世界を取り巻く経済環境は、第3四半期に入ってもなお不安的な状態が続いています。円高が進み、期初時点で見通した為替レートから乖離が生じているため、下半期の売上高は期初予想を下回る見通しであります。これにより通期の連結売上高は期初予想を下回る見通しです。損益面では、固定費を中心に経費削減が進展し、営業損益と経常損益が改善する見通しであります。第2四半期に計画外で発生した特別損失の計上により、当期純損益は概ね期初予想どおりとなる見通しです。

【個別】

下半期の売上高は、精機関連、光通信部品共に市況が厳しく、期初の予想数値を下回る見通しであります。その結果通期の売上高は期初予想を下回る見通しです。一方損益面では、経費削減が進み、営業損益は概ね期初の予想通りとなり、経常損益は期初予想からやや改善する見込みです。当期純損益は、計画外の特別損失が影響し、期初予想を下回る見通しとなりました。

(業績予想に関する留意事項)

上記に記載した業績予想数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績数値は、業況の変化等様々な要因により、上記予想数値と異なる結果となる可能性があります。